

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮城教育大学
設置者名	国立大学法人宮城教育大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
教育学部	初等教育教員養成課程	夜・通信					13	
	中等教育教員養成課程	夜・通信			22	22		
	特別支援教育教員養成課程	夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.miyakyo-u.ac.jp/student_life/database/image/zitumukeiken2021a.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮城教育大学
設置者名	国立大学法人宮城教育大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct12.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	前職：福岡教育大学副学 長 現職：財務担当理事	2018. 4. 1～ 2022. 3. 31	財務担当理事として、大学における教育研究活動を適切かつ効果的に運営する。

<p>(備考) 本学の理事は3名であるため、記載は1名としている。</p> <p>国立大学法人法 第十四条 学長又は文部科学大臣は、それぞれ理事又は監事を任命するに当たっては、その任命の際現に当該国立大学法人の役員又は職員でない者が含まれるようにしなければならない。</p>			
---	--	--	--

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮城教育大学
設置者名	国立大学法人宮城教育大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																								
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>前年度の1月に次年度開講予定の授業科目を担当する教員(シラバス担当教員)へシラバス作成について、作成要領を送付のうえ依頼を行う。</p> <p>シラバス担当教員は作成要領に基づき、授業概要、授業の到達目標、授業計画、準備学修の内容と必要な学修時間(目安)、成績評価の方法、教科書・参考書、履修に当たっての留意事項・メッセージ、授業評価アンケートへの返答のほか、授業計画のうち実務経験を有する教員の授業回等を前年度末の指定された期日まで入力を完了し、当該年度の4月1日より本学のHPにて学生・教職員のほか一般も含め広くシラバスの公開を開始している。</p>																								
授業計画書の公表方法	<p>https://www.miyakyo-u.ac.jp/student_life/database/index.html#a01</p>																							
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																								
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法及び単位認定については以下のとおり実施している。</p> <p>○成績評価の方法</p> <p>各授業科目における評価の方法の詳細については、各授業科目のシラバスにおいて具体的に記載しており、各授業科目において評価する項目(平常点(授業参加の姿勢等)、課題・レポートおよび試験の評価結果等)を明示し、それに基づき評価している。</p> <p>○成績評価の評語・評点と単位認定</p> <p>成績評価の評語と合格・不合格の判定は次のとおり。</p> <p>成績評価の判定が合格の場合、その授業科目の単位を認定している。</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>可否の判定</th> <th>評価</th> <th>評語</th> <th>評点(GP)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">合格</td> <td>S</td> <td>きわめて優秀な水準に達している</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>優れた水準に達している</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>ねらい通りの水準に達している</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>合格に足る水準に達している</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>D</td> <td>合格に足る水準に達していない</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	可否の判定	評価	評語	評点(GP)	合格	S	きわめて優秀な水準に達している	4.0	A	優れた水準に達している	3.0	B	ねらい通りの水準に達している	2.0	C	合格に足る水準に達している	1.0	不合格	D	合格に足る水準に達していない	0.0			
可否の判定	評価	評語	評点(GP)																					
合格	S	きわめて優秀な水準に達している	4.0																					
	A	優れた水準に達している	3.0																					
	B	ねらい通りの水準に達している	2.0																					
	C	合格に足る水準に達している	1.0																					
不合格	D	合格に足る水準に達していない	0.0																					

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学ではG P Aを導入し、①学生自ら学業成績の現状を的確に判断し適切な履修計画を立てることにより主体的な学習を進めること、②履修行動と学習態度の改善を促して卒業認定の質的保証をすること、③成績評価を厳密に行うことで教育効果を高め、学生の学習意欲を触発し学習目標を明確化すること、④成績優秀者に対して、C A P制による履修登録単位数上限を緩和する際の基準とすること、⑤科目間の成績評価基準のばらつきを標準化すること等に活用している。</p> <p>本学のG P A算出方法は以下のとおり</p> <p>①対象となるのは、本学在籍中に履修登録したすべての科目</p> <p>②「S」「A」「B」「C」の評価に対する評点(G P)に、修得した科目の単位数を掛けて足しあわせます。</p> <p>③履修登録したすべての授業の単位数を足しあわせます(履修登録期間内に履修登録を抹消した科目は含みません。ただし、不合格の授業は含みます)。</p> <p>④G P Aは以下の算出方法で計算します(G P A=②の数値÷③の数値)。</p> $\frac{(S \text{ 評点単位数} \times 4.0) + (A \text{ 評点単位数} \times 3.0) + (B \text{ 評点単位数} \times 2.0) + (C \text{ 評点単位数} \times 1.0)}{\text{総履修登録単位数}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>「履修のしおり」(刊行物)として入学時に入学生全員に配付</p> <p>○実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 https://www.miyakyo-u.ac.jp/student_life/database/image/zitumukeiken2021a.pdf</p> <p>○GPA https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_5.html#a01</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生は4年間、教師となるための学修を重ね、「学士(学校教育学)」の学位(ディプロマ)を取得して卒業します。本学では以下のようなディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を定め、卒業に際して学生が身につけているべき力を明示しています。</p> <p>本学の学生は、教育の未来と子どもたちの未来を担う教師として、次のような力を身につけて卒業します。</p> <p>広い視野と高度な専門性を具え、実践的な指導力を身につけた教師</p> <p>1-1 広い視野と豊かな教養に裏付けられた深い人間観と、世界を正しく見定め、異文化を受容できる確かな社会観を身につけている。</p> <p>1-2 専門とする教科や得意とする分野・領域について、確かな学力と高度な専門性、実践的な指導力を身につけている。</p> <p>1-3 子どもの発達や心身の状況に応じて、それぞれが抱える問題を理解し、適切に指導できる知識と能力を身につけている。</p>	

1-4 常に学び続け、自己研鑽に励み、創意工夫して、よりよい教育を目指す確かな基礎力とひたむきな向上心を身につけている。

強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間力を具えた教師

2-1 教育に対する強い使命感と責任感を持ち、愛情をもって子どもに接することのできる健康な心身と豊かな人間力を具えている。

2-2 組織の一員として、高い倫理観と規範意識、自己制御力を持って、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身につけている。

2-3 子どもとの間はもとより、他の教職員、保護者や地域の関係者とも良好な信頼関係を築きつつ、着実に教育に取り組む姿勢を身につけている。

2-4 時代の状況や社会の変化のなかで、自ら培ってきた知識や体験を活かしつつ、新たな課題に立ち向かう柔軟さや粘り強さを具えている。

上記の方針を踏まえ、各課程別に定めた卒業要件単位数を修得したものについて、卒業認定を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct2_1.html#a03

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮城教育大学
設置者名	国立大学法人宮城教育大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	官報及びホームページ (https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_2.html)
収支計算書又は損益計算書	官報及びホームページ (https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_2.html)
財産目録	
事業報告書	ホームページ (https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_2.html)
監事による監査報告(書)	ホームページ (https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_2.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和3年度国立大学法人宮城教育大学年度計画 対象年度:令和3年度)
公表方法: https://drive.google.com/file/d/1NkQFU77TqzzAmXJGfLXt3i6ThI4Lutdc/view
中長期計画(名称:第3期中期目標・中期計画 対象年度:平成28~令和3年度)
公表方法: https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/data/3_mokuhyou.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.miyakyo-u.ac.jp/su/houjin/rinku/tenken/H30.5.07/jikotenken-hyokahoukokusyo(H30).pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.miyakyo-u.ac.jp/su/houjin/rinku/tenken/H30.5.07/hyokakekka(Rlninsyohyouka).pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_4.html#a01) (概要) 本学は教員養成に責任を負う大学として、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校等における優れた資質・能力を持った教員を養成することを目的とし、教育学部においては、学術の中心として豊かな教養を与えるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させ、もって有為な教育者を育成し、併せて学術の深奥を究め文化の進展に寄与することを目的とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct2_1.html#a03) (概要) 学生は 4 年間、教師となるための学修を重ね、「学士 (学校教育学)」の学位(ディプロマ)を取得して卒業します。本学では以下のようなディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を定め、卒業に際して学生が身につけているべき力を明示しています。 本学の学生は、教育の未来と子どもたちの未来を担う教師として、次のような力を身につけて卒業します。 広い視野と高度な専門性を具え、実践的な指導力を身につけた教師 1-1 広い視野と豊かな教養に裏付けられた深い人間観と、世界を正しく見つけ、異文化を受容できる確かな社会観を身につけている。 1-2 専門とする教科や得意とする分野・領域について、確かな学力と高度な専門性、実践的な指導力を身につけている。 1-3 子どもの発達や心身の状況に応じて、それぞれが抱える問題を理解し、適切に指導できる知識と能力を身につけている。 1-4 常に学び続け、自己研鑽に励み、創意工夫して、よりよい教育を目指す確かな基礎力とひたむきな向上心を身につけている。 強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間力を具えた教師 2-1 教育に対する強い使命感と責任感を持ち、愛情をもって子どもに接することのできる健康な心身と豊かな人間力を具えている。 2-2 組織の一員として、高い倫理観と規範意識、自己制御力を持って、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身につけている。 2-3 子どもとの間はもとより、他の教職員、保護者や地域の関係者とも良好な信頼関係を築きつつ、着実に教育に取り組む姿勢を身につけている。 2-4 時代の状況や社会の変化のなかで、自ら培ってきた知識や体験を活かしつつ、新たな課題に立ち向かう柔軟さや粘り強さを具えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct2_1.html#a02) (概要) 本学では、広い視野と高度な専門性を具え、実践的な指導力を身につけた教師、また強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間力を具えた教師を養成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。 1. 広い視野と豊かな教養に基づく、均衡のとれた深い人間観と確かな社会観・世界観を有する社会人を養成するためのカリキュラムを編成しています。

2. 力量ある教師を養成するために、教職や教科等の専門科目の学力を重視し、「教育職員免許法」で定められた単位数を大幅に超えて学修するカリキュラムを編成しています。

3. 実践的指導力を具えた教師を養成するために、教育現場と連携した実践的な授業科目を系統的に設定し、大学における学修と教育現場における学修の往還、理論と教育実践の結合を可能にするカリキュラムを編成しています。

4. 環境教育や特別支援教育、国際理解教育など、教育現場で求められる現代的な諸課題について、深い教養と実践的な問題解決能力を具えた教師を養成するために、それらを学ぶことの可能なカリキュラムを編成しています。

5. 教育に対する強い使命感と責任感を持って、常に学び続け、愛情と理解をもって子どもを指導できる豊かな人間力を具えた教師を養成するためのカリキュラムを編成しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct2_1.html#a01)

(概要)

本学は、広い視野と高度な専門性を具え、実践的な指導力を身につけた教員、また強い使命感と責任感を持ち、豊かな人間力を具えた教員を養成する教員養成大学です。将来、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校等において優れた資質・能力をもった教員として活躍するために、第一に、教員となることへの強い目的意識を持ち、教員として、人間としての成長を目指す使命感・向上心を有する学生を求めています。そして、基礎的な知識および技能の上に、これらを活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を育み、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を有した学生を受け入れます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/outline/ct4.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
教育学部	—	38人	20人	6人	0人	1人	65人
大学院	—	16人	11人	0人	0人	0人	27人
その他	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		125人					125人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/kyouindb-public					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学のFD活動は、大学運営企画室である点検・評価室が中心となり企画実施している。点検・評価室は、大学全体のFD活動の体系化を検討し、新任教員に対するFD策、教員全般の授業力、講座毎の授業改善の課題という三つの視点からFD活動を実施している。新任教員に対するFD策としては、「教員選考に当たって授業能力についての評価を行う」、「新任教員研修として附属学校園等学内施設の訪問・見学研修の実施」及び「学校現場へのインターンシップ的現場実習を行う機会の準備」としている。</p> <p>教員全般の授業力改善については、FD研修会として令和2年度にはICTの活用やしょうがい学生支援に関する研修会等を開催し、また、例年点検・評価室で発行する「宮城教育大学FD通信プリズム」において、各講座をローテーションに年2回授業公開誌上版を掲載し、授業計画や教育研究の質向上を図る一助としている。</p> <p>講座毎の授業改善の課題と改善策では、点検・評価室においてセメスター毎に実施される授業評価アンケート調査の結果を各講座に通知し、各講座から報告された「授業の改善目標・具体的改善策」及び「改善結果の検証・評価」の内容を検討し、改善策等を教授会で報告し、FDに活かしている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	345人	359人	104.1%	1,380人	1,454人	105.4%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	345人	359人	104.1%	1,380人	1,454人	105.4%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	345人 (100%)	27人 (7.8%)	299人 (86.7%)	19人 (5.5%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	345人 (100%)	27人 (7.8%)	299人 (86.7%)	19人 (5.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	365人 (100%)	329人 (90.1%)	24人 (6.6%)	12人 (3.3%)	0人 (0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	365人 (100%)	329人 (90.1%)	24人 (6.6%)	12人 (3.3%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>開講している授業科目について、シラバスを作成しており、シラバス情報の内容としては、授業概要、授業の到達目標、授業計画、準備学修の内容と必要な学修時間(目安)、成績評価の方法、教科書・参考書、履修に当たっての留意事項・メッセージ、授業評価アンケートへの返答のほか、授業計画のうち実務経験を有する教員の授業回等を入力し、当該年度の4月1日より本学のHPにて学生・教職員のほか一般も含め広く公開を開始している。</p> <p>また、年間の授業計画については、授業日程及び学内行事予定などを記載した授業計画を作成し、本学HP及び刊行物(開講科目一覧)により広く公表している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>成績評価の方法及び単位認定については以下のとおり実施している。</p> <p>○成績評価の方法 各授業科目における評価の方法の詳細については、各授業科目のシラバスにおいて具体的に記載しており、各授業科目において評価する項目(平常点(授業参加の姿勢等)、課題・レポートおよび試験の評価結果等)を明示し、それに基づき評価している。</p>

○成績評価の評語・評点と単位認定
成績評価の評語と合格・不合格の判定は次のとおり。
成績評価の判定が合格の場合、その授業科目の単位を認定している。

合格の判定	評 価	評 語	評点 (G P)
合格	S	きわめて優秀な水準に達している	4.0
	A	優れた水準に達している	3.0
	B	ねらい通りの水準に達している	2.0
	C	合格に足る水準に達している	1.0
不合格	D	合格に足る水準に達していない	0.0

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	初等教育教員養成課程	133単位	④・無	52単位
	中等教育教員養成課程	133単位	④・無	52単位
	特別支援教育教員養成課程	136単位	④・無	52単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/campus/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部		535,800円	282,000円	4,660円	学研災及び学研賠の合計

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学学生が、経済的な理由により修学機会を失うことのないように、授業料等免除の実施や、各種奨学金及び株式会社オリエントコーポレーション提携の教育ローンの案内を行っている。</p> <p>また、海外留学を希望する学生の支援として、留学希望者のための海外留学ハンドブックを作成・HPでの公開を行うなど情報提供を積極的に行っている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 就職相談 経験豊富な特任教授が学生との日常的な会話を通じてきめ細かい相談に応じています。</p> <p>2. 求人票の閲覧 一般企業、私立学校等からの求人情報を閲覧できます。</p>

<p>3. 面接等指導 企業面接、教員採用面接又は公務員人物試験を受ける予定の学生に対して個別面接や集団討論の指導を行っています。</p> <p>4. 論作文・エントリーシートの添削 教員採用試験・公務員試験・企業試験対策として論作文やエントリーシートの添削を行っています。</p> <p>5. ピアノ実技指導 教員採用試験対策として小学校の教員を目指す学生に対してピアノの実技指導を行っています。</p> <p>6. 各種問題集等の閲覧 各種の採用試験問題集及び就職情報誌等を閲覧できます。</p> <p>7. 教員採用試験対策講座 教職講演会、個人面接実技指導等を行っています。</p> <p>8. フォローアップ研修 教員採用試験合格者を対象に、授業以外の実務についての研修を行います。</p> <p>9. 卒業生の支援 卒業生に対する就職支援、相談及びアフターケアを行います。</p> <p>10. 1年次からのキャリア形成 1年次からキャリア形成をデザインし、職業感を身につけます。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>以下の3室に於いて専門的見識により個別に対応を行い、毎月定例の情報交換会を実施し3室の連携により、どの部署でも相談に対応できるようにしている。</p> <p>1. 保健管理センター：医師1名、看護師2名が健康に関する相談を随時行っている。</p> <p>2. 学生相談室：大学生活の中の様々な問題・悩み・心配ごとについて2名の相談員が相談にのり解決の手助けを行っている。</p> <p>3. しょうがい学生支援室：平成21年度に「しょうがい学生支援室」を設置し障害のある学生に対し入学時から修学支援を行ってきた。また、平成28年度施行の「障害者差別解消法」により、3名のコーディネーターが常駐し様々な相談に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.miyakyo-u.ac.jp/about/disclosure/ct1_4.html

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F104110100865
学校名	宮城教育大学
設置者名	国立大学法人宮城教育大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		140人	144人	153人
内 訳	第Ⅰ区分	92人	83人	
	第Ⅱ区分	27人	35人	
	第Ⅲ区分	21人	26人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				153人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	36人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	36人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。